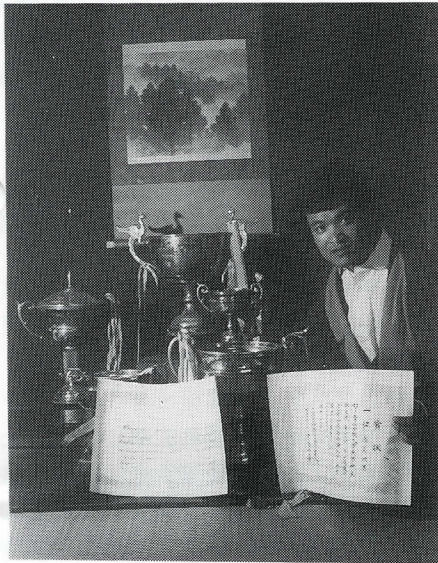


ESS・OB 会会報

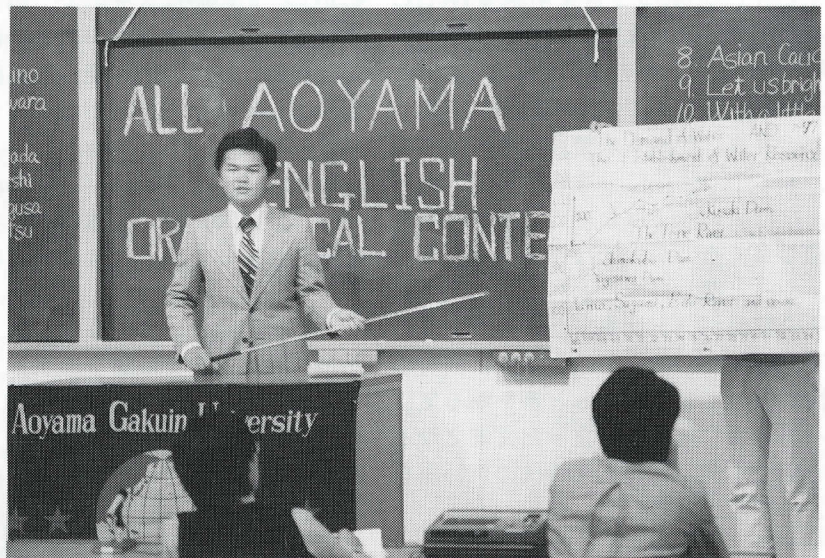
平成11年4月1日発行
 発行者 持田 輝靖(昭和38年卒)
 〒160 新宿区新宿1-2-1
 新宿御苑前マンション510
 株ライト ハンズ インターナショナル
 電話 03-3355-1906

特集 スピセクの活動

前号では、ドラセクのメインイベントだったT I A Fの特集し好評でしたので、本号ではスピセクを取り上げました。このスピセク特集では、38年卒の浅見昭男さんと56年卒の横山泰彦さんから寄稿頂くとともに、各種コンテストの戦績については、浅見さん自身が編集に携わり保管されていた小冊子TORCH LIGHT (1963年に当時のESSが発行) から、記録(英文)を引用しご紹介します。1950年から1961年までの期間の活動が詳しく記録されており、その時代に限られてしまいますが、先輩たちの奮闘振りが伝わってきます。



我が青春の想い出、数々のカップとともに。
 写真提供：浅見昭男(昭和38年卒)



1977年10月オール青山スピコンでスピーチする横山氏
 写真提供：横山晴彦(昭和56年卒)

マッカーサー杯/The All Japan English Oratorical Contest for the MacArthur Trophy

- 1951年 2位 Mr. Kunio Okabe
- 1952年 2位 Mr. Kunio Okabe
- 1953年 * Mr. Shuzo Nagahara
- * 原文には「順位」の記載がありません。

全日本毎日杯/The All Japan English Oratorical Contest sponsored by The Mainichi

- 1954年 1位 Mr. Shuzo Nagahara

全日本毎日杯関東選抜/The All Kanto-District English Oratorical Contest for the Mainishi Trophy

- 1958年 5位 Miss Wataru Satoh
- 1961年 7位 Mr. Akio Asami

I S A 杯/The All Japan English Oratorical Contest sponsored by the I. S. A.

- 1956年 1位 Mr. M. Hashimoto
- 1958年 4位 Miss Shizuyo Toba



米軍横田基地杯/The All Kanto-District English Oratorical Contest for the Yokota Air Base Trophy

- 1956年 1位 Mr. M. Hashimoto*
- 1957年 1位 Mr. M. Hashimoto
- 1958年 1位 Mr. Eikoh Taira
- 1959年 2位 Miss Fujiko Sunaga
- 1960年 1位 Miss Kimiyo Yamamoto
- 4位 Miss Fujiko Sunaga *
- 1961年 3位 Miss Kimiyo Yamamoto

* 原文には「関東地区」とだけ記載されており「全日本毎日杯関東選抜」に該当する可能性があります。

早大・大隈杯/The All Kanto-District English Oratorical Contest held at Waseda University

- 1958年 1位 Miss Wataru Satoh
- 1959年 1位 Miss Kazuko Homma
- 1961年 1位 Mr. Akio Asami

全日本高松宮杯/The All Japan English Oratorical Contest for the Trophy of H. I. H. Prince Takamatsu

- 1958年 6位 Miss Shizuyo Toba
- 1959年 2位 Mr. Shimizu

三部合同/The Three Joint English Oratorical Contest (day/night/junior)

- 1959年 1位 Miss Kimiyo Yamamoto
- 1960年 3位 Miss Akiko Andoh
- 4位 Mr. Akio Asami
- 1961年 3位 Miss Hisako Shiraiishi
- 4位 Mr. Yukio Iura

東農大・10大学対抗/the Ten-Universities' English Oratorical Contest held at Tokyo Agricultural Univ.

- 1961年 3位 Miss Akiko Andoh

オール青山/The All-Aoyama English Oratorical Contest

- 1961年 5位 Miss Yuko Hamanaka

OBファイル



作詞家・作家・脚本家としてご活躍の
相沢紘子(旧姓・武藤)さん
ペンネーム: ヒロコ・ムトー
(昭和43年仏文科卒)

今回のOBファイルは、大学時代ムチョと皆に呼ばれて人気者であった武藤紘子さん。昭和43年仏文科卒である。ESSという大きなクラブ活動のディスカッションセクションに所属していた当時から、ESS特有の英語力がものを言うクラブのなかで、人間的ユニークさで、セクションの枠を越えて上級生から下級生まで、女性・男性を問わず、とにかく友人の多い人であった。ESSには実際には、二年間しか属していないのに、ずっと在籍していたかのような存在感のある人だった。

人間が大好きなムチョは、いつも真正面から相手と向かい相手を受け止める。だが、自分の恋となるとちょっと様子がちがった。照れ屋でシャイな一面も持ち合わせていたのだった。だから、大学卒業後、私が長崎で教員生活をしてしばらく音沙汰のなかった間に、一年上級の、当時のディスカッションセクションのチーフであった相沢三喜夫氏と、どのように再会し、どのように進展をしたのか全てを知っているわけではないが、結婚をして現在は相沢紘子さんである。

当時、頼りがいのあるカッコイイ先輩として、父のように兄のように、憧れの眼差しに囲まれて、ESSの中で君臨し、慕われていた相沢三喜夫氏の大きな掌の上に乗ったムチョは、今やエンジン全開で、楽しそうに羽ばたいている。

卒業後、TBSテレビ制作部にタイム・キーパーとして勤務を始めた。えっ！算数の苦手な彼女が！ と思っていたら、さすがであった。最初のステップを踏み出したムチョは、すぐにいずみたく氏主宰のオール・スタッフプロダクションに所属し、作詞家、訳詞家としてヒロコ・ムトーのデビューである。44年より3年間つづけて古賀賞入賞曲の作詞をしたりと活躍をはじめ。

昭和51年、三菱系の企業に勤務している相沢氏がニューヨーク駐在となったため、四年間をアメリカで過ごす。当時一歳半の美樹ちゃんを連れてゆき、帰りには、アメリカ生まれの妹の麻子ちゃんが一緒であった。感受性の鋭い時期の美樹ちゃんをアメリカへ連れていくのを、とても心配していたムチョであったが、本当の心配は帰国してからであった。

帰国子女となった美樹ちゃんを、日本の社会生活に馴染ませる努力たるや、それは感動するほどであった。美樹ちゃんその時の悲しみとムチョの奮闘ぶりは、『ミキ、アメリカに帰りたい』（講談社）に詳しい。また、ニューヨークで出逢った多くの駐在員の妻たちの、それぞれの孤軍奮闘ぶりや悩みを綴った『妻たちの海外駐在』（文芸春秋社）は、駐在員の必読書となって版を重ねている。

三年間のアメリカ生活で、エネルギッシュなムチョは日本にいる時よりはゆったりと過ごしたのだと思う。いろいろなものを育ててきて、その一つが童話の世界である。原作・脚本・作詞という形で、ミュージカル『青いガラスとエメラルド』、『白姫伝説』を稲垣美穂子主演で公演。『白姫伝説』は文化庁芸術祭参加作品となった。

こんな風に著作を並べていくと、凄い仕事ぶりに見えてくるが、著書は三年に一冊位のペースではないだろうか。

普段は何をしているのかって思うでしょ？ たいていは、チンチラシルバーの夢のように美しい白猫と戯れているか、他人のためにいつも何かに奔走している不思議な優しさのある人である。

幼い頃から大の猫嫌いであったムチョが猫狂いに変身したのはこの「五右衛門」と名づけたチンチラシルバーのせいである。この美しい小さな王様には、誰もががかしずかずにはいられないのである。この五右衛門も『幸福な猫の淋しい背中』（文芸春秋社）の主人公となった。

この家猫の五右衛門だけでなく、五右衛門が窓から眺める外の世界の猫たちにも、ムチョは五右衛門と同じような気持ちで関心を示すのである。真っ黒な俊敏なゴールドという一匹の野良猫の家族を、あるきっかけで外猫として飼うことになるところから、『猫の遺言状』（文芸春秋社）は始まる。この賢くて誇り高いゴールドにムチョは何度も試されたり裏切られたりするのだが、いつも真正面からゴールドと向き合い、動物である猫のプライドを大切に受け止める。動物を超えた猫と、人間を超えた人間との凄いやつ同士、全幅の信頼を寄せあった心の交流にとっても感動した。

いつも一生懸命になれるムチョ、あったかくて楽しいムチョというキャラクターが織りなす日々を、作家ヒロコ・ムトーが綴りつづけてゆくことを願っている。(文・荒木みほ)



プロフィール ヒロコ・ムトー

- 昭和20年、秋田県生まれ
- 昭和43年、青山学院大学仏文科卒業
- 昭和43年、TBSテレビ制作部にタイム・キーパーとして勤務する。
- 昭和44年、いずみたく氏主宰のプロダクションに所属し、作詞家としてデビューする。
- 昭和51年、渡米（夫・相沢氏ニューヨーク駐在のため）
- 昭和54年、帰国
- 昭和57年、この頃より執筆家・脚本家として始動する。
- 主な作詞作品 『白いラブレター』（坂本九）
『雲よ風よ空よ』（ペギー葉山）
- 主な著作 『ミキ、アメリカに帰りたい』（講談社）
『妻たちの海外駐在』（文芸春秋社）『不忘窯の人びと』（蝸牛社）『猫の遺言状』（文芸春秋社）
- ミュージカルの原作・脚本・作詞 『青いガラスとエメラルド』、『白姫伝説』など多数である。
- ヒロコ・ムトーのホームページ abe0005@ibm.net